

日本語の命令依頼表現について

正宗 美根子 *

Imperatives and Requests in Japanese

Mineko Masamune *

Received September 13, 2000

はじめに

日本人は、聞き手との距離、上下関係、発話の場(ウチソト)、性別(男女)によって、日本語を使い分ける。それを反映して、日本語には、おびたしい数の命令依頼表現がある⁽¹⁾。この論文は、命令表現と依頼表現の線引きを行い、様々な形で表現される命令表現、依頼表現について整理考察を行ったものである。

1 命令表現について

英語では、Do it yourself! のように、命令形で省略されているのは、二人称代名詞の you である。従って、動作主は聞き手となり、受益者は話し手となる。しかし、日本語の命令表現では、授受動詞と組み合わせることによって、動作主を、聞き手、特定第三者 とし、受益者を、話し手、聞き手、特定第三者とすることが可能である。

1 - 1 特定の二人称を動作主とし、受益者が話し手である命令表現には、次のようなものがある。

- (1) 書け(ウチ 男)
- (2) 書きなさい(ソト 男女)
- (3) お書きなさい(ソト 尊敬語 男女)
- (4) お書き(ウチ 尊敬語 女)
- (5) 書いて(ウチ 男女)
- (6) お書きになって(ウチ 尊敬語 女)
- (7) 書いてくれ(ウチ 男)

* 外国語学部
Faculty of Foreign Languages

- (8) 書いておくれ(ウチ 尊敬語 男女)
 (9) 書いて下さい⁽²⁾(ソト 尊敬語 男女)
 (10) お書き下さい(ソト 尊敬語 男女)
 (11) お書きになって下さい(ソト 尊敬語 男女)
 (12) 書くこと!(ウチ 男女)
 (13) 書くんだ!(ウチ 男)
 (14) 書くんです!(ソト 男女)
 (15) 書いてもらいます!(ソト 男女)
 (16) 書いていただきます!(ソト 尊敬語 男女)
 (17) お書きになっていただきます!(ソト 尊敬語 男女)
 (18) 書いてもらおう!(ウチ 男)
 (19) 書いてもらいましょう!(ソト 男女)
 (20) 書いていただこう!(ウチ 尊敬語 男)
 (21) 書いていただきましょう!(ソト 尊敬語 男女)
 (22) お書きいただきましょう!(ソト 尊敬語 男女)
 (23) お書きになっていただきましょう!(ソト 尊敬語 男女)
 (24) 書いてもらうことになる(ウチ 男)
 (25) 書いてもらうことになります/なっています(ソト 男女)
 (26) ?お書きいただくことになる(ウチ 尊敬語 男)
 (27) お書きいただくことになります/なっています(ソト 尊敬語 男女)
 (28) ?お書きになっていただくことになる(ウチ 尊敬語 男)
 (29) お書きになっていただくことになります/なっています(ソト 尊敬語 男女)

日本語の命令表現は、命令形及びその省略形((1)-(11)), 体言止め(12), 拡張述語((13) & 14)), 授受動詞 もらう/いただく のですます体の言い切り((15)-(17)), 授受動詞 もらう/いただく の意志形((18)-(23)), 授受動詞 もらう/いただく+ことになる((24)-(29))で表現される。それぞれ ウチソト, 尊敬語か否か, 男女の使い分けがある。

上記の内, ウチで男性が使う命令表現は, 言い方が乱暴だという印象を与える。(15)-(29)の命令表現の中で, ですます体を使ったものは, 言い方が丁寧である分, 慇懃無礼な印象を与え, 聞き手に有無を言わせない強制力を持つ。ですます体を使うことで, 話し手と聞き手の間の距離が広がり, 突き放してしまうことになって, 強制力が出てくるのである。ですます体に尊敬語が加わると, その度合はさらに強くなる。そして, それに, 物事が話し手聞き手を越えたところで決ってしまっている という意味をもつ ことになる という表現を加えることで, さらにその強制力が増す(24)-(29)。ことになる を加えた命令表現は, 目上から目下に使われた場合, 状況によって, 選択の余地のない強制力を持つ。これは, ウチとソト, 目上目下で使い分けがある待遇表現の発達した日本語のもつ命令表現の一つの特徴である。

日本語の終助詞 ヨ には, 話し手が, 聞き手に知識を与える という用法がある。命令表現は, 聞き手に動作をやらせる という表現なので, 上記の表現の 体言止め(12)と意志形

を使った(18)-(23)以外のものは、(1)'書けよ (2)'書きなさいよ のように、終助詞ヨとの共起が可能である。日本語の命令表現の多くの特徴として、終助詞ヨとの共起をあげることができる。

不特定多数の二人称を動作主とする場合は、(1)(2)(9)の形が使われる(例えば、試験問題の指示等)。客商売のように、相手をたてる場合は、(10)⁽³⁾が使われる。

又、(8)(9)のテ-形を、(8)(9)'のように使役にすることで、話し手を動作主に、聞き手を受益者にすることが出来る。

(8)'書かせてくれ(ウチ 男)

(9)'書かせて下さい(ソト 尊敬語 男女)

1-2 聞き手を動作主とし、特定の第三者を受益者とする命令表現には、次のようなものがある。

1-2-1 授受動詞 やる/あげる/さしあげる を使ったもの

(30)書いてやれ(あげろ)(ウチ 男)

(31)書いておやり(おあげ)(ウチ 尊敬語 男女)

(32)書いてやりなさい(あげなさい)(ソト 男女)

(33)書いておやりなさい(おあげなさい)(ソト 尊敬語 男女)

(34)書いてやるんだ!(あげるんだ!)(ウチ 男)

(35)書いてやるんです!(あげるんです!)(ソト 男女)

(36)書いてやること!(あげること!)(ウチ 男女)

(37)書いてさしあげろ(ウチ 尊敬語 男)

(38)書いてさしあげなさい(ソト 尊敬語 男女)

(39)書いてさしあげるんだ!(ウチ 尊敬語 男)

(40)書いてさしあげるんです!(ソト 尊敬語 男女)

(41)書いてさしあげること!(ウチ 尊敬語 男女)

(31)(33)(37)-(41)の敬意は、特定の第三者に対するもので、動作主である聞き手を、その目下におく表現である。

(30)(37)は、(42)-(45)のように、授受動詞 くれ/下さい を加えることで、聞き手の動作が、話し手のために行われるという意味合いを強くすることができる。

(42)書いてやってくれ(あげてくれ)(ウチ 男)

(43)書いてさしあげてくれ(ウチ 尊敬語 男)

(44)書いてやって下さい(あげて下さい)(ソト 尊敬語 男女)

(45)書いてさしあげて下さい(ソト 尊敬語 男女)

又、下さい を使った次のような言い方も話し手によっては可能である。

- (46) ?書いておやり下さい(ソト 尊敬語 男女)
 (47) ?書いておやりになって下さい(ソト 尊敬語 男女)

1 - 2 - 2 謙讓表現を使ったもの

- (48) お書きしろ(ウチ 男)
 (49) お書きしなさい(ソト 男女)
 (50) お書きするんだ!(ウチ 男)
 (51) お書きするんです!(ソト 男女)
 (52) お書きすること!(ウチ 男女)
 (53) お書きして(さし)あげる(ウチ 男)
 (54) お書きして(さし)あげなさい(ソト 男女)
 (55) お書きしてさしあげるんだ!(ウチ 男)
 (56) お書きしてさしあげるんです!(ソト 男女)
 (57) お書きしてさしあげること!(ウチ 男女)

(48)-(57)の例も、聞き手の動作に謙讓語を使うことで、必然的に、聞き手は特定第三者の目下に置かれる。

1 - 3 特定第三者を動作主とし、聞き手を受益者とする命令表現には、次のようなものがある。授受動詞 もらう/いただく が使われる。

- (58) 書いてもらえ(ウチ 男)
 (59) 書いておもらい(ウチ 尊敬語 女)
 (60) 書いてもらいなさい(ソト 男女)
 (61) 書いておもらいなさい(ソト 尊敬語 女)
 (62) 書いてもらうんだ!(ウチ 男)
 (63) 書いてもらうんです!(ソト 男女)
 (64) 書いてもらうこと!(ウチ 男女)
 (65) 書いていただけ(ウチ 尊敬語 男)
 (66) 書いていただきなさい(ソト 尊敬語 男女)
 (67) 書いていただくんだ!(ウチ 尊敬語 男)
 (68) 書いていただくんです!(ソト 尊敬語 男女)
 (69) 書いていただくこと!(ウチ 尊敬語 男女)
 (70) ?お書きになっていただけ(ウチ 尊敬語 男)
 (71) ?お書きになっていただきなさい(ソト 尊敬語 男女)
 (72) ?お書きになっていただくんだ!(ウチ 尊敬語 男)

(73) ?お書きになっていただくんです! (ソト 尊敬語 男女)

(74) ?お書きになっていただくこと! (ウチ 尊敬語 男女)

(65)-(74)の尊敬語は、動作主である特定第三者を高めるものである。

(75)のような言い方をすると、受益者である、聞き手に対する敬意となる。

(75) ?書いておもらいになって

又、(76)-(79)のように、授受動詞の *くれ/下さい* を加えることで、特定第三者の動作が、聞き手のために行われ、さらに、それが、話し手に利益をもたらす という意味合いを強くすることができる。

(76) 書いてもらってくれ (ウチ 男)

(77) ?書いていただいってくれ (ウチ 尊敬語 男)

(78) 書いてもらって下さい (ソト 尊敬語 男女)

(79) 書いていただいして下さい (ソト 尊敬語 男女)

上記の 1 - 2 1 - 3 であげた例も、(36) (41) (52) (57) (64) (69) (74) の体言止めの例を除いて、終助詞 *ヨ* との共起が可能である。

2 依頼表現について

日本語の依頼表現は、授受動詞を使ったもの (2 - 1)、願望表現を使ったもの (2 - 2)、その他 (2 - 3) の三つに分けることができる。そして、願う という願望動詞を使ったものと、その他であげた例の一部のものを除いて、すべて、眼前の聞き手に対する依頼となる。依頼表現の場合、命令表現とは異なり、ですます体 尊敬語を使った表現は、使わない表現より丁寧な依頼になる。

2 - 1 依頼表現で使われる授受動詞は、くれる/下さる と もらう/いただく の可能形 もらえる/いただける である。もらえる/いただける の代わりに、可能の意味をもつ ことが出来る を加えた もらうことが出来る/いただくことが出来る を使った表現も可能である。

2 - 1 - 1 授受動詞の肯定形及び否定形に上がり調を使った依頼表現

(80) 書いてくれる/くれない (ウチ 男女)

(81) 書いて下さる/下さらない (ウチ 尊敬語 女)

(82) 書いてもらえる/もらえない (ウチ 男女)

(83) 書いていただける/いただけない (ウチ 尊敬語 女)

- (84) 書いてくれます/くれませんか (ソト 男女)
 (85) 書いて下さいます/下さいませんか (ソト 尊敬語 男女)
 (86) 書いてもらえます/もらえませんか (ソト 男女)
 (87) 書いていただけます/いただけませんか (ソト 尊敬語 男女)

上記の表現は、肯定形より否定形を使った方がより丁寧になる。否定形を使うことで、聞き手に対して、依頼を断わりやすい状況が作られるからである。

(81)×(83)×(85)×(87)の例は、書いて の部分にも、尊敬形 お書き(になって) を使った表現が可能であるが、丁寧すぎるという印象があり、女性が好んで使う。

- (81)' お書き(になって)下さる/下さらない (ウチ 尊敬語 女)
 (83)' お書き(になって)いただける/いただけない (ウチ 尊敬語 女)
 (85)' お書き(になって)下さいます/下さいませんか (ソト 尊敬語 女)
 (87)' お書き(になって)いただけます/いただけませんか (ソト 尊敬語 女)

終助詞 ヨ 及び 知識の共有を確認し聞き手に同意を求める終助詞 ネ を組み合わせたヨネ には、当該の発話を登録した後に、マッチする分脈と結び付ける⁽⁴⁾という機能がある。上記の(80)-(87)×(81)×(83)×(85)×(87)'の例すべてに(80)'書いてくれる/くれないヨネ etc のように、ヨネ を加えることが可能である。ヨネ を加えることで、そのもつ意味から、必然的に、押し付けがましさが出て来る。

2 - 1 - 2 授受動詞の否定形に、推量の疑問形 だろうか/でしょうか を加えた依頼表現

- (88) 書いてくれないだろうか(ウチ 男)
 (89) 書いてくれないでしょうか(ソト 男女)
 (90) 書いてくれませんか(ソト 男女)
 (91) 書いてもらえないだろうか(ウチ 男)
 (92) 書いてもらえないでしょうか(ソト 男女)
 (93) 書いてもらえませんか(ソト 男女)
 (94) 書いて下さらないだろうか(ウチ 尊敬語 男)
 (95) 書いて下さらないでしょうか(ソト 尊敬語 男女)
 (96) 書いて下さいませんか(ソト 尊敬語 男女)
 (97) 書いていただけないだろうか(ウチ 尊敬語 男)
 (98) 書いていただけないでしょうか(ソト 尊敬語 男女)
 (99) 書いていただけませんか(ソト 尊敬語 男女)

(94)-(99)の例は、書いて の部分に 尊敬形 お書き(になって) を使った言い方も可能である。

- (94)' お書き(になって)下さらないだろうか(ウチ 尊敬語 男)
 (95)' お書き(になって)下さらないでしょうか(ソト 尊敬語 男女)
 (96)' お書き(になって)下さいませんか(ソト 尊敬語 男女)
 (97)' お書き(になって)いただけないだろうか(ウチ 尊敬語 男女)
 (98)' お書き(になって)いただけないでしょうか(ソト 尊敬語 男女)
 (99)' お書き(になって)いただけませんか(ソト 尊敬語 男女)

上記の例は、推量表現にすることで、話し手の依頼の意図があいまいになり、押し付けがましさが薄らぐと考えられる。

又、上記の例で、*だろうか* を使った表現は、男性のみ使用する。

2 - 1 - 3 授受動詞の否定形に *- こと* を加えた依頼表現

- (100) 書いてくれないこと(ウチ 女)
 (101) 書いて下さらないこと(ウチ 尊敬語 女)
 (102) お書きになって下さらないこと(ウチ 尊敬語 女)
 (103) 書いてもらえないこと(ウチ 女)
 (104) 書いていただけないこと(ウチ 尊敬語 女)
 (105) お書きになっていただけないこと(ウチ 尊敬語 女)

命令表現で使われる *- こと* は、強い響きがあるが、授受動詞の否定形に *- こと* をつけたこの依頼表現は、やさしい響きをもち、女性のみ *ウチ* で使用する。

2 - 2 願望表現を使った依頼表現

願望表現が依頼表現として使われるのは、それが、ただ単に話し手の願望であって、聞き手と関わりのないものであるという解釈が可能になり、相手に対する負担がなくなるので、好んで使われるのであろう。

2 - 2 - 1 *- ほしい* をつけた依頼表現

- (106) 書いてほしい(ウチ 女)

動詞のテ - 形に *ほしい* がついた *書いてほしい* という表現は、話し手の願望を表す。しかし、場面によっては、消極的な依頼表現になる。*- てほしい* を使った依頼表現は、女性が多く使い、*ウチ* で使われる。

筆者は、30代の後半にしばらく洋裁教室に通っていた。生徒は、30代が三人、50代が二人、60代が一人の小規模なクラスで、30代前半の女性の方に教わっていた。それぞれが自分の縫いたいものを持ち寄って、個別指導の形で授業が進められていた。その女性の先生は、生徒に対

して、ここを下まで縫ってほしい というように、一貫して、- てほしい という形の依頼表現を使っていた。これは、消極的で遠慮がちな依頼表現で、やるかやらないかは、100%聞き手の判断にまかされている。自分より年上の生徒に対して、命令形は使えず、かといって、先生であるという立場も考えた上での判断によって、婉曲的な願望表現を選んだのだと思われる。威圧的な命令形をさけてはいるが、ウチで使う - てほしい を使うことで、教室という公の場に ウチ で使う表現を持ち込むことにより、自分は生徒と違って、立場が上であるから、生徒には許されない ウチ の表現が許されるということを伝えているのである。生徒より、立場上、気楽さが許されるということである。

- てほしい の後に拡張述語と接続詞 が のついた依頼表現 (107) (108) も可能である。言い切りの形より表現がおだやかになる。

(107) 書いてほしいんだが (ウチ 男)

(108) 書いてほしいんですが (ソト 男女)

2 - 2 - 2 - たい をつけた依頼表現

(109) 書いてもらいたい (ウチ 男)

(110) 書いていただきたい (ウチ 尊敬語 男女)

(111) お書きいただきたい (ウチ 尊敬語 男女)

(112) お書きになっていただきたい (ウチ 尊敬語 男女)

上記のように、授受表現の - てもら、- ていただく に願望を表す - たい のついた - てもらいたい、- ていただきたい という形の依頼表現も可能である。

この表現は、普通 - んだが (男) - んですが (男女) という拡張述語に接続詞 が を伴った表現と共に使われる。(109)-(112) のように、言い切りの形を使うと、強く聞こえる。

2 - 2 - 3 動詞 願う を使った依頼表現

(113) お書き願います (ソト 尊敬語 男女)

(114) お書き願えます (ソト 尊敬語 男女)

(115) お書き願えません (ソト 尊敬語 男女)

(116) お書き願えますか (ソト 尊敬語 男女)

(117) お書きいただくようお願いします/いたします (ソト 尊敬語 男女)

(118) お書きいただくようお願いしたいんだが (ウチ 尊敬語 男)

(119) お書きいただくようお願いしたいんですが (ソト 尊敬語 男女)

(120) お書きいただきますようお願い申し上げます。(ソト 尊敬語 男女)

相手に、動作が分かっている場合、お願い! お願いします という依頼表現を使うことができる。言い切りの前者は、女性がウチで使う表現である。後者は、広く一般的に、ソトで、上

下に関係なく使用可能である。

(113)の例は、漢語の場合、御- をつけて 御連絡願います/お願いします あるいは、御- を省略した 連絡願います/お願いします の形も使われる。又 連絡方願います/お願いします のように、他の動作の可能性を含めてあいまいにした形の表現も可能である。

(113) (117) (120) は、書き言葉 あるいは、不特定多数を相手にする場合の話し言葉としても使われる。

2 - 3 その他の表現

(121) お書きいただければ有難いんですが (ソト 尊敬語 男女)

(122) お書きいただければ幸いです (ソト 尊敬語 男女)

(123) 書いてもらってもいい (ウチ 男女)

(124) 書いてもらってもいいですか (ソト 男女)

(125) 書いていただいてもよろしい (ウチ 尊敬語 男女)

(126) 書いていただいてもよろしいですか (ソト 尊敬語 男女)

(127) ここにお書きいただけます/お書きいただくことができます。(ソト 尊敬語 男女)

(121) (122) は、感謝の気持ちを表明しての依頼である。(123)-(126) は、許可を求める表現を使っての依頼で上がり調で発話される。(127) は、可能性を表明しての、婉曲的な依頼である。どれも依頼の意味を表面に出さない間接的な表現である。(122) (127) は、書き言葉としても使用可能である。

おわりに

以上、書く という動作を促す、おびたしい数の命令依頼表現が日本語にあることが分かった。そして命令表現と依頼表現の間には、次のような使い分けがある。

a. 命令表現は、動作主として、特定二人称、不特定二人称、特定三人称 をとることが出来、受益者として、一人称、特定二人称、特定三人称 をとることが出来る。それに対し、依頼表現は、その用法から、動作主として、特定二人称、不特定二人称 をとり、受益者は、一人称 だけである。

b. 命令表現のほとんどに対して、終助詞の ㇿ を加えることが出来る。終助詞 ㇿ を加えることで、相手の注意を促し、催促をするという意味が加わる。

c. 命令表現は、相手に動作を行うことを強制するという性質の表現である。従って、表現を和らげ丁寧にするはずの ですよ体 や 尊敬語 を使っても、強制力は弱くならないという特徴がある。

だ体は、ウチ で使われ、ですよ体は、ソト で使われる。ウチ で、ここに書いて と

言っても、相手が応じない場合、ですます体 を使って、ここに書いてもらいます！ と言い替えると、強制力が増す。ウチ で使われる 親しみ を表す表現の代わりに、相手との距離を表す ですます体 を使うことで、強制力が、出て来るのである。

又、尊敬語は、話し手を目下におくものである。従って、目上の話し手が、目下の相手に対して、自分を目下におく尊敬語を使うと、逆の効果が出て、強い強制力が現れるのである。

依頼表現で使われる ですます体 や 尊敬語 には、上記の用法はなく、その本来の用法で使われる。

日本人は、日本語を話す時、聞き手より目下に自分をおくことで、相手に対する敬意を表す。命令依頼表現は、相手に動作をやらせる というものなので、さらに、自分を目下におくという傾向が強くなり、おびたしい数の表現が可能になるのであろう。

ソト で目上の人と話をする時、どの表現を使えばいいのかいつも迷うのは、相手との関係で細かい使い分けのある日本語を母語としているものにとって避けては通れないものである。又逆に、目上から目下に話をする場合、選んだ表現によっては、話し手の予期しない強い響きを聞き手に与えてしまうことも起こりうるのである。そういう日本語を、豊かさとするのか、苦労とするかは、その人その人によるのであろう。

註

- (1) 日本語の待遇表現について 正宗美根子 北陸大学紀要第18号 1994 pp.58-59
- (2) 以下の例で、下さい を使った命令表現は、下さいませ 下さいまし のように、語尾に -ませ あるいは -まし をつけることで女性語となる。
- (3) 漢語の場合は、御 - を使って 御携帯下さい のようになる。電車等では、項目2で扱う依頼表現の -願います を使った 中へおつめ願います という言い方もよく聞かれる。
- (4) 終助詞ヨネ 金水敏 言語 vol.22, no.4 1993 4 p.120

参考文献

- 菊池康人 敬語 角川書店 1994
- 金水敏 終助詞 ヨネ 言語 vol.22, no.4 1993 4 pp.118-121
- 高見健一 被害受身文と‘-にvしてもらう’構文 - 機能的分析 -
Report (4) Researching of the human faculty for constructing and computing sentences on the basis of lexical conceptual features Grant-in Aid for COE research 課題番号08CE1001
(研究代表者 井上和子) PP.187-210
- 高見健一・久野 暉 日本語の被害受身文と非能格性 上 言語 vol.29 no.8 2000 8 pp.80-91
- 正宗美根子 日本語の待遇表現について 北陸大学紀要第18号 1994 pp.57-63
- 正宗美根子 日本語における女性語男性語 北陸大学紀要22号 1998 pp.157-163
- 許明子 テモラウ文と受身文の関係について 日本語教育 105号 2000 4 pp.1-10
- Lakoff, Robin (edited with Notes by Hisao Kakehi, Kazuhiko Yoshida, Yoshihiro Nishimitsu) Language and Woman's Place 栄宝社 平成4年(第11刷)